

研究テーマ	感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくることの工夫 一小学校 第1年生「てでさわってかくのきもちいい」の実践を通して
-------	--

古河市立水海小学校 教諭 田續良子

I 研究テーマについて

一年生のほとんどが図画工作を好きであるが、実際取り組んでみると興味が持続しなかったり、表現能力が未熟なため自分の思いが表現できず途中であきらめてしまったりすることがある。そのため達成感や成就感が持てないことから図画工作を嫌がる児童がでてくる。

そこで、児童一人ひとりが自分の思いや願いを持続できる材料「どろどろ絵の具」を使うことで感覚や気持ちを生かし思いのままにすることが楽しく感じることができているのではないかと考えた。指導にあたっては、「感覚や気持ち」と「つくること」を切り離さないように配慮することが重要であると考え、研究テーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名

「てでさわってかくのきもちいい」

2 題材の目標

手や指を使ってかくことを楽しむことを通して、心を開き、楽しく活動をする力を培う。

3 題材について

(1) 児童の実態 (男子10名 女子10名 計20名) 平成28年5月

質問項目	好き	やや好き	やや苦手	苦手
1 図工は好きですか?	13	6	1	0
①造形遊び	17	3	0	0
②絵	15	4	1	0
③工作や粘土	14	4	2	0
3 自分が思っているように絵を かいたり、ものをつくったりで きますか?	できる	わからない	あまりできない	できない
	12	3	3	2
4 絵の具を使ったことが、あり ますか?	つかったことがある		つかったことがない	
	3		17	

このアンケート結果から、図工工作の時間を楽しみに待っている児童が多い。しかし、いざ始めると進んでどんどん作りあげる児童がいる反面、なかなか取り掛からず悩む児童がいる。その時は、悩んでいる児童に、周りの児童の様子を見させたり、快くなるような音楽をかけてイメージを持つように声をかけたりしている。児童が、少しずつ取り掛かり始めたら様子を見て、教師がその児童のいいところをほめると児童は楽しそうにやりはじめる。低学年の児童には、その場の雰囲気づくりと声かけなど有効だと思われる。

また、絵の具を使う活動はまだ未体験の児童が多いので、クレヨンやクーピーなどの画材との特徴の違いなどしっかり指導する必要がある。絵の具の色と色が出会うと変化することに驚いて、より引き付けられる「どろどろ絵の具」の活動を楽しむようになるだろうと考え、関心を持って取り組み絵の具を使い始める1年生のこの時期に、本テーマを設定した。

(2) 題材観

本題材は、液体粘土と絵の具を混ぜ合わせて、その感触を十分に味わい、絵の具の心地よい感触を味わいながら、直接指や手のひらで思いのままかいたりぬったりする活動を楽しむ題材である。児童は、液体粘土に共同絵の具を混ぜ合わせて、「どろどろ絵の具」という描画材をつくり、指や手のひらを使って、思いついたものを直接、画用紙にかいていく。その際、造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開くことができると考える。その感触の心地よさや色の美しさから新たな活動を発想したり、いろいろな表現を試したりできる題材である。

(3) 指導観

液体粘土は絵の具の混ぜ方によって色が変わってくることを、体験する中で気付かせていきたい。そのために絵の具は、最初一人一色ずつ皿に分けておき、絵の具と液体粘土を混ぜる体験をさせる。その後、様々な色を試すことができるように、あらかじめ皿を多めに用意しておく。そして、体全体を使って活動できるように汚れてもいい服装で、自由に楽しく取り組ませたい。

4 題材の評価規準

(1) 目標

液体粘土と絵の具の感触を体全体で感じ、形や色などから思いついたことを絵に表現して楽しむ。

(2) 評価基準

◇は努力を要すると判断される状況 C の児童への支援



造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・どろどろ絵の具を手のひらにつけて、かいたり、ぬったりする感触を味わいながら、描く活動を楽しんでいる。	・体全体の感覚を働かせながら、形や色、肌触りなどを感じ取り、表現したいことを思いついている。	・指や手のひらで描いたり塗ったりしながら、どろどろ絵の具の表現、色の違いなどを生かし、表現方を工夫している。	・自分や友だちの作品や活動から面白さに気付いたり、楽しさを感じたりしている。
◇汚れても大丈夫であることを示し、安心して取り組むことや友だちと一緒に楽しく活動することを促す。	◇対話を通して、形や色、肌触りなどの感じに目を向けるようにする。 ◇友達と互いに見合いながらいろいろなイメージを思い浮かべられるようにする。	◇指や手の使い方によって、違った感じのどろどろ絵の具の跡になる面白さや、色を選ぶ、混ぜるなどの活動を促し、色の面白さに目を向けさせるようにする。	◇自分の作品の気に入ったところを話すようにしたり、気に入った友達の作品を選び、面白さや楽しさを友だちと話し合ったりする。

5 指導と評価の計画（4時間扱い）

※○印は時数

時間	学習内容・活動	評価基準 ・【評価方法】
第1次 ①	・どろどろえのぐとなかよし 白の画用紙にえがいてみよう。 ブレ体験をする。	・初めての素材に積極的に関わろうとすることができる。 【関】【行動観察・発言・表情】
第2次 ①	・どろどろえのぐはかせになろう 作品を見る。 一人ずつ一枚の色画用紙（四つ切り）を にかきたいものをイメージして表現する。	・指や手のひらで思いのままにかいたり ぬったりすることから想像を広げて、 表現したいものを思いつくことができる。 【発】【行動観察・発言・表情】 ・指や手のひらでできた絵の具の跡や、 色の違いなどを生かした表現を工夫 することができる。 【創】【行動観察・発言・表情】
第3次 ①	・このかたち、このいろなにに見えるかな できた形や色に合わせて描画材を選び、 イメージを広げて表現する。	・えがいた画面から、何かを思いつき、 いろいろなことをかきたそうと することができる。 【発】【行動観察・発言・表情】 ・色を重ねたり、混ぜたり、点描したり ひっかいたりするなど、クレヨンやク ーピーなどの画材を使ってかきたす ことができる。 【創】【行動観察・発言・表情】
第4次 ①	・どろどろえのぐでらんかいをしよう 自分や友だちの作品の表し方のよさを見 つけたり、話し合ったりする。	・自分や友だちの作品のよさやおもしろ さに気付くことができる。 【鑑】【付箋紙・発表・振り返りカード】

6 指導の実際（4時間扱い）

過程	学習内容 ・ 活動	教師の支援と評価（関・発・創・鑑）
出 会 う	<p>1 学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どろどろえのぐとなかよしになろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 液体粘土に出会い、指や手で絵の具を混ぜたり、色と色とを混ぜたりしながら、どろどろ絵の具をつかって表していくことを知る。 <p>「わあ！つめたい！」 「べたべたするなあ。」 「なにか、においがするね。」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 液体粘土を紹介したり、液体粘土と絵の具を混ぜて「どろどろえのぐ」を見せたりする。白い紙に実際に手でぬってみて期待感を持てるように配慮する。 ・ 児童には1人1皿を用意し、まずは自分の好きな1色のどろどろ絵の具をつくるようにする。 <p>関 絵の具を指や手のひらにつけて、かいたりぬったりする快さを味わいながら、かく活動を楽しんでいるか。（行動観察・発言・表情）</p>
た め す	<p>2 どうなるかやってみよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どろどろえのぐはかせになろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 皿の上でどろどろ粘土を混ぜる感触を十分に楽しんだら、画用紙にかいていく。 <p>「わー！気持ちいい！」 「さっきよりうすい色になった。」 「ちょっとちがう色になったなあ。」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で好きな色の四つ切りの画用紙を選ぶようにすすめる。 ・ 同じ色の絵の具を増やしたり、友だちから違う色をもらって重ねたりしながら、色の変化を楽しんでどんどんかくことができるようにする。 <p>発 指や手のひらで、思いのままにかいたりぬったりすることから想像を広げて、表したいものを思いついているか。（行動観察・発言・表情）</p>
	<p>3 いろんなことをやってみよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>このかたち、このいろなににみえるかな</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 違う色のどろどろ粘土をつかってかいたり、いろいろな表し方を見つけたりしながらどろどろ絵の具で表すことを楽しもう。 <p>「手形ができた。」 「その上に重ねてみたらおもしろいぞ。」 「この色とこの色がまざったよ。」 「ひっかいてみたら、絵がかけた。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指先でかいたり、とんとん押ししたり、手のひら全体でぬったり、爪でひっかいたり、さまざまな表し方を発見できるようにする。 ・ どろどろ粘土に触れることや指でかくことに抵抗がある児童には、実際にやってみせたり、また上から違う色のどろどろ粘土をのせてみたりする。そして自分の思い通りの絵がえがけなくてもすぐ修正ができること

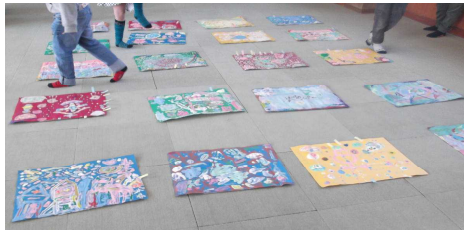
		<p>を気付かせる。</p> <p>創 指や手のひらを動かす勢いや強さなどによる絵の具の跡を、生かした表現を工夫しているか。 (行動観察・発言・表情)</p>
<p>深 め る</p>	<p>4 思いついたもの、表したいものをかきたす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クレヨンなどつかってかきたそう。 <p>どろどろ絵の具の色の混ざり具合や指の跡などから想像を広げ、思いついたことや面白そうなことをかき足したりする。</p> <p>「この形は何に見えるかな？ 動物に見えるから、目をかこう。」 「また違う色を作ってこの上に重ねよう。」 「クレヨンやクーピーでもようをかくぞ。」</p>  <p>「あれ！かいているものがちがうね。」 「4人のえをあわせるとおもしろいな。」 「あわせて、みんなのあそびばをつくらうよ。」 「前のときとえが、ちがってきたぞ」 「題名をかえようか。」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽をかけたり、広い空間を使ったりして児童の身体感覚をより働かせるような学習環境を設定する。 ・ どろどろ絵の具ではない描画材を使い色を重ねたり、混ぜたり、点描したり、ひっかいたりするなど、さまざまな表し方を工夫することができる。 ・ 活動が進むにつれて児童の中から湧き上がってくる様々な発想や工夫をその都度、全体に紹介し、表し方の参考にできるようにする。 ・ 友だちと考えや行動が一体となつてのびのびと活動することができるように声を掛ける。 ・ かいた画面から何かを思いついた児童の想像の世界や、こだわって表している児童の様子などを全体に紹介する。さらに表現や工夫をすることができるようにする。 ・ 前の作品の題名に付け加えたり、変えてもいいことを話し、どろどろ絵の具ではない描画材を付けくわえることにより、印象やイメージを膨らませる。 <p>創 指や手のひらでできた絵の具の跡や、色の違いなどを生かした表現を工夫している。 (行動観察・発言・表情)</p>

広
げ
る

5 みんなのさくひんを見てすてきなところを
みつけよう。

どろどろえのぐてらんかいをしよう。

- 自分の作品を広い空間のすきな場所に自由
に展示する。
グループ作品は、話し合っ
てまとめて工夫
して展示する。
全員で作品を見ながら互いの表現のよさや
おもしろさを味わう。
「色がカラフルでおもしろいな。」
「不思議だなあ。」



- どろどろ絵の具の感触を楽しんだり
様子や表し方の工夫、想像した世界
の面白さなどを伝え合い、互いのよ
さを感じられるようにする。

- 初めは、名前や題名を隠して鑑賞す
る。

- 児童同士が、自分の気持ちや印象、
体験などを自由に交換できるような
時間や場を工夫して、一人ひとりの
気づきが交流し合うことで見方や感
じ方を深めるようにする。

- 3種類の付箋紙を用意して各色ごと
に「形」「色」「好きな絵」と決め
て作品に自由に貼るようにする。

- 自分が3種類の付箋紙を、どうして
この作品のところに貼ったか友だち
にきちんと理由をいうことができる
ようにする。言えない児童には言い
方のワークシートを用意する。

- 自分の作品のおすすめのところを一
人ずつ発表する。

- 感じたことを話したり、友だちの話
を聞いたりするなどして、形や色の
表し方の面白さ、違う材料の感じな
どに気付くことができる。

鑑 自分や友だちの作品のよさや面白
しろさに気付いている。
(付箋紙・発表・振り返りカード)

III 研究の成果と課題

1 成果

- 実施後のアンケート結果から

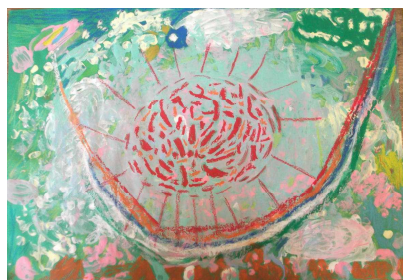
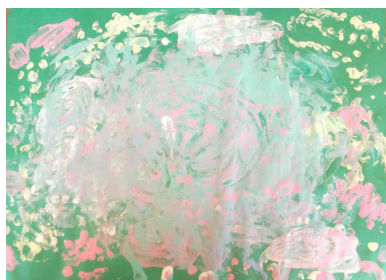
児童(生徒)の実態 (男子10名 女子10名 計20名) 平成29年2月

質問項目	すき	ややすき	ややきらい	きらい
1 図工の絵をえがくのはすきですか?	17	3	0	0
質問項目	できた	ややできた	あまりできない	できない
2 「てでさわってかくのがきもちいい」 では、自分が思っているようにえが、 たのしくえがけましたか?	15	5	0	0

- ・この題材「てでさわってかくのきもちいい」をはじめるときのアンケートと比べてみると、絵をえがくことが好きな児童が増えてきた。また自分の思い通りに絵を楽しんで描く児童が5人も増えていた。
 - ・実施後のアンケート結果により題材「てでさわってかくのきもちいい」では、はじめてどろどろ絵の具に触れたことによって、児童の興味・関心が高くなり遊びの延長線にあるような親しみやすい題材であると再確認できた。
 - ・これまでは、児童の中にある既存のイメージや、見たこと・経験したことなどを絵に表す活動が中心であったと感じていた。題材「てでさわってかくのきもちいい」を通じて、絵においても材料とかかかわることから、形や色を使って絵をかくという、もう一つの楽しさを味わうことができた。
 - ・初めての素材のどろどろ絵の具を手でさわって指を使い絵をかくことで、どの児童の表情が明るく楽しく取り組んでいた。
 - ・五感を感じて作品づくりに取り組んでいた。とくに音楽をかけていたら、ゆっくりやこきざみなど曲想に合わせて指や手を動かしていた。絵をかくのが苦手だと感じていた児童も楽しく取り組んでいた。
 - ・ブレ体験をしてから、好きな色の画用紙を決め、好きな色のどろどろ絵の具を使って描いたので、手や指の感覚を生かし、伸ばしたりひっかいたりするなど、自分の思いに合った表し方を工夫することができた。
 - ・「学習内容・活動」で違う色の画用紙やどろどろ粘土をつくりえがいた作品の終了後、題名をつけ中間鑑賞会をした。また、どろどろ絵の具の色の混ざり具合や指の跡などから想像を広げ、思いついたことや面白そうなことをかき足したりした作品の終了後、また題名を考えさせた。
- 全員の児童の題名が変わりより具体的になった。最終鑑賞会「どろどろえのぐてんらんかい」では、児童が活発に発言し活動できた。

児童の作品と題名の変化

はじめの作品
題名「くるくるのせかい」 → クレヨン、クーピーなどでつけたした作品
題名「夕やけのたいよう」



児童の題名の変化

はじめの題名	つけたした後の題名
・ゆめのせかい →	・かおが3人のテレビの人
・かたちのまち →	・からふるプール
・ろぼっとのせかい →	・からふるロケットロボット
・よるのまつり →	・よるの森の花火

2 課題

- ・時間がたってくると、児童がより大胆になり絵の具の色が混色になってくる。ルールを決めて色を混ぜる場合は違う皿を用意するなど工夫する。
- ・作品の中で色が混ざっている児童がいたので、深めるときには時間を少しおいて、どろどろ絵の具を重ね塗ったりクレヨンなどまた違う描画材料を使う。児童の発想が表現方法や技法に結びつくようなアプローチの用意が必要であるだろう。
- ・本題材は、紙の種類や大きさ、形によっても作品の仕上がりが変化する。どのように絵の具の感触を味わわせたいか、どのように想像を広げてほしいかをよく考えて準備する必要がある。

参考資料

- ・小学校学習指導要領解説図画工作平成 20年 8月 文部科学省
- ・図画工作学習指導書 用具・材料編 開隆堂出版
- ・新しい鑑賞の授業 開隆堂出版

